

(参考和訳)

IOC がマラソンと競歩を札幌へ移転する計画を発表

より涼しい環境での耐久競技は、東京 2020 オリンピック競技大会中の選手、関係者、観客を守るための包括的な対策の一つである

IOC は、本日、1972 年冬季オリンピックの開催都市である札幌にオリンピックマラソンと競歩競技を移転する計画を発表しました。日本の最北部の都道府県である北海道への変更は、オリンピック期間中の選手にとって、気温を大幅に低下させるものであります。札幌では、800 キロ以上南に位置する東京より、大会期間中の日中の気温は 5~6 度ほど低くなります。

この計画は、来年の夏に起こりうる気温による影響を緩和するために IOC や国際競技連盟と協議して、東京 2020 組織委員会がすでに取り組んでいる幅広い暑さ対策の一部です。IOC は、本変更案について既に国際陸上競技連盟に通知しています。

IOC と東京 2020 によるこの最新の取り組みは、IOC 医事科学委員会 悪天候の影響に関する専門ワーキンググループ (IOC ワーキンググループ) の勧告に基づいて既に計画され、実施されている他の暑さ対策に追加されるものであります。

具体的には、

- 陸上競技: 5,000m と長距離走は、午前中ではなく、夕方に開催。マラソンや競歩は開始時間を前倒し
- ラグビー: 午前中の試合はすべて正午前に終了
- サイクリング: マウンテンバイクの開始時間を午後 3 時に後ろ倒し

IOC ワーキンググループは、マラソンと競歩は選手に特に熱さのストレスをかける種目として認識していました。

その他の種目や競技に関しては、IOC ワーキンググループは、それぞれの種目、選手、スタッフ、職員、観客に推奨する予防、軽減、治療措置を講じているので、時間帯は検討し続けるべきではあるが、現時点では変更する必要はないようだ結論付けています。

これらの対策の多くは、この夏のテストイベントで試行されています。

より多くの日陰の設置、ミスト、飲料水へのより良いアクセスや選手の準備を手助けするものとしてウェブサイト「アスリート 365」で詳細な情報を提供する構想といったものが含まれます。

マラソンと競歩の会場変更構想の実施については、関係するすべてのステークホルダー、特に開催都市の東京、国際陸上競技連盟、NOCs、オリンピック放送機構(OBS)、ライツホルダー(放送権者: RHB)と議論する予定である。10月30日から11月1日に、東京で開催されるIOCのジョン・コーツ委員が委員長を務める調整委員会でも、暑さ対策についての特別セッションが設けられます。

調整委員会では、東京2020組織委員会が行った各国際競技連盟への調査や、暑さ対策に関するIFからの助言についても議論が行われます。アスリート中心のアプローチの一環として、組織委員会は、すでに実施されている多くの対策に追加して、各IFに暑さ対策に関するアンケートを送っています。

2013年に東京が立候補を発表した際には、すでに暑さは考慮されており、その時からIOCと組織委員会は状況をチェックし続けています。本日提案する対策、及びすでに採用されているものは、IOCがアスリートの健康とパフォーマンスを意思決定の中心に置き続ける中で、状況の変化に応じるものです。

IOCのトーマス・バッハ会長は「アスリートの健康と幸福は常に我々の関心事の中心にある。選手を守るための様々な対策が既に発表されています。マラソンと競歩競技の移転といった今回の新しい遠大な提案は、我々がこういった懸念をいかに真剣に受け止めているかを示すものであります。オリンピックは、アスリートが“一生に一度”のパフォーマンスを行うことができるプラットフォームであり、これらの措置は、彼らが最善を尽くせるコンディションを確保するためのものです。世界陸上競技に感謝し、実施に向けて彼らと協力することを楽しみにしています。」と述べた。

国際陸上競技連盟のセバスチャン・コー会長は「来年のオリンピック大会時の気象状態について、我々はIOCおよび東京2020組織委員会と緊密に協力してきており、今後も引き続き、屋外のレースイベントを札幌に移転する提案について、IOCおよび組織委員会と協力していきます。アスリートが最善のパフォーマンスをするため、与えられた環境において最適なプラットフォームを提供することはすべての主要な種目の中核であり、我々は主催者と協力して来年のオリンピック大会で最適なマラソンおよび競歩会場を準備します。」